

町田市高齢者福祉計画 2013年度 進捗状況 要約版

＜計画の期間、現在の位置＞

↓2013年度は 2年目 でした

前期：	1年目★ 2012年度	2年目 2013年度	3年目 2014年度	4年目★ 2015年度	5年目 2016年度
後期：	6年目 2017年度	7年目★ 2018年度	8年目 2019年度	9年目 2020年度	10年目★ 2021年度

★…町田市介護保険事業計画（3カ年） 各期の初年度

**＜重点基本施策の総評＞**

高齢者の生きがい・集う場づくり  
 ＜生きがい・集う場づくりの支援、就労機会を確保する取組＞  
 →これまで継承されてきた高齢者の社会的活動の充実、資源の整備を進めています。これらの施策を有機的にとらえ、望ましい将来像の実現につながる方策として再構築を検討します。

見守り支援ネットワークの推進  
 ＜見守り支援ネットワークの地域の拡充、あんしん相談室の拡大＞  
 →市民、事業者による重層的な見守りネットワークの構築を進めています。これらのネットワークが周知され、市民に活用される方策を検討します。

※2013年度は、10年間の計画のうちの2年目、前期の2年目でした。町田市介護保険事業計画については、第5期の2年目でした。

※評価については、10年間の長期計画の2年目であったため、第5期町田市介護保険事業計画のように単年度での「◎」「○」「×」「－」は付けずに、「今年度の取組み概要」と「今後の進め方、方向性」の視点で行いました。

※計画書第4章（45ページから）より、主な基本施策順に、施策と取組み（事業）を抜粋してあります。【～ページ】の記載は、計画書のページ番号です。

基本施策については、「町田市高齢者福祉計画」の概要版に掲載されているが（重点施策）、「第5期町田市介護保険事業計画」に掲載されていないものを対象としています。

※各事業についての詳細な進捗状況は、第5期町田市介護保険事業計画のものをご参照ください。

---

---

## 高齢者の生きがい・集う場づくり【46ページ】

～10年後のめざす姿～

高齢者が住み慣れた地域で、色々な仲間と集える場があり、趣味や就労に取り組めることで、いつまでも元気に生きがいをもって暮らすことができます。

＜基本目標1 地域参加と生きがいづくりの推進【45ページ】＞

---

---

### ＜主な実績と成果＞

- ・老人クラブの新規設立、ゲートボールなど高齢者スポーツの促進、ふれあい館の維持管理など、高齢者の生きがいや集う場の原点ともいえる活動の充実に取り組んでいます。
- ・高齢者の就業機会提供にむけ、町田市シルバー人材センターに対する指導・支援などに取り組んでいます。

### ＜今後の課題＞

- ・それぞれの施策を充実すると同時に、施策を有機的にとらえ、町田市の高齢社会の望ましい将来像の実現につながる方策を見出していきます。

## 施策の方向① 生きがい・集う場づくりの支援【47ページ】

○今年度は、老人クラブが1クラブ解散になりましたが、5クラブの新規設立を行い、118クラブになりました。また、町田市老人クラブ連合会主催の各種事業の支援を行いました。

今後は、新規クラブの設立支援を行うとともに、介護保険事業とも連携した生きがい・集う場としての老人クラブのあり方を考え、若年齢層会員の加入に向けての働きかけを検討します。（『ア. 老人クラブ育成事業【47ページ】』）

○高齢者のスポーツとして、町田市主催のゲートボール各種大会を3回開催し、約2,000人が参加しました。また、町田市ゲートボール協会主催の各種ゲートボール大会、各種ゲートボール教室の支援を行いました。

今後は、ゲートボール競技人口の増加について、引き続き支援を行います。また、各種大会等の開催についても支援していきます。（『イ. 高齢者スポーツ普及事業【47ページ】』）

○集う場づくりについては、ふれあい館での実施事業を見直し、ふれあい館が地域で果たす役割などの検討を行いました。また、耐震工事を行い、10年後でも誰もが安心して利用できるように、管理整備を行いました。

今後は、地域の生きがいや集う場の拠点として、地域で果たすふれあい館の役割について検討を行います。（『ウ. ふれあい館（高齢者福祉センター）機能の検討【47ページ】』）

## 施策の方向② 就労の機会を確保する取組【48ページ】

○就労機会の確保に関しては、公益社団法人町田市シルバー人材センターが行う高齢者の就業機会の提供について指導・支援を行いました。会員数は約3,300人です。

今後は、自主財源を中心とした組織運営ができるように、高齢者の就業機会の提供について、指導・支援を行います。（『ア. シルバー人材センター振興事業【48ページ】』）

---

---

## 見守り支援ネットワークの推進【54ページ】

～10年後のめざす姿～

ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯を地域で見守り、支えあうことにより、高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を送れます。

＜基本目標2 住み慣れた地域での生活継続の推進【53ページ】＞

---

---

### ＜主な実績と成果＞

- ・市民による見守りや事業者による見守りによる重層的な見守りネットワークの構築を推進しています。
- ・12の高齢者支援センターを拠点に、市民に身近なそれぞれの圏域で拡充を図っています。

### ＜今後の課題＞

- ・整備されたネットワークの存在を市民に浸透させ、活用されるネットワークとしていきます。

## 施策の方向① 見守り支援ネットワークの地域の拡充【55ページ】

○市民による見守り支援ネットワークについては、既存の6箇所その他、南大谷地区と金井地区の4箇所新たに構築し、累計10箇所になりました。

今後は、新規で2箇所の構築に取り組み、全高齢者支援センターエリア12圏域への設置と内容の拡充を進めます。（『ア. 高齢者見守り支援ネットワーク事業【55ページ】』）

○事業者による見守りとして、市内事業者の4団体（28事業者）と、見守りに関する協定を締結し、累計9団体（83事業者）になりました。また、ふれあい収集や配食サービス事業者（13事業者）で、継続して事業実施しました。

今後はさらに、協定締結団体の拡充を進めていきます。（『イ. 事業者での見守り【55ページ】』）

○高齢者の外出を見守る仕組みとして、あんしんキーホルダーモデル事業の地域を拡大し、市内全12箇所の高齢者支援センターで事業を実施できました。また、登録申請数は2,330件ありました。

今後は、各支援センターとの情報交換会を開催していきます。（『ウ. あんしんキーホルダー事業【55ページ】』）

## 施策の方向② あんしん相談室の拡大【56ページ】

○今年度は、小山あんしん相談室、相原あんしん相談室の2箇所で設置しました。累計6箇所になりました。

○今後は、2012年度に見守り支援ネットワークを構築した2地区において、2箇所設置します。（『ア. あんしん相談室設置事業【56ページ】』）